

個別の教育支援計画（幼児期）

ふりがな 氏名	○○○○（幼児名）		
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことなど，自分でできることは自分です。 ・手指を細やかに動かすことができる。 ・身近な人とのかかわりがもてるようになる。 		
項目	保護者の願い	各項目の目標	機関
A 生活習慣・身辺自立	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークでこぼさずに食べられるようになってほしい。 ・尿意を感じたら，自分でトイレに行ってほしい。 ・自分でズボンをはけるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・握り持ちから，鉛筆持ちに変えていく。 ・「おしっこでる？」の質問に答えられる。 ・ズボンを見せると自分からはくようになる。 	家庭 ○○保育園 療育機関
B 運動面	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒にぶらさがれるようになってほしい。 ・手遊びやジャンケンで手の形を明確に作れるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒に5秒ぶらさがる。 ・ジャンケンでチョキの形を作ることができる。 ・指を1本ずつ動かせるようになる。 	家庭 ○○保育園 療育機関
C ことや対人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・帰る時には必ずバイバイができるようになってほしい。 ・「ちょうだい」が言えるようになってほしい。 ・欲しいものを指差しできるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のバイバイを見て同じ動きができるようになる。 ・相手の反応を見て「ちょうだい」が言えるようになる。 ・相手の指差しにうなずいたり，まねたりするようになる。 	家庭 ○○保育園 療育機関
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所に慣れてほしい。 ・絵が描けるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所でも泣かないでいられる。 ・クレパスで線や丸を描く。 	家庭 ○○保育園 療育機関

幼稚園名			
保育所（園）名 ○○保育園			
支援内容・手立て【合理的配慮の観点】		評価	機関・担当
A 生活習慣・ 身辺自立	<ul style="list-style-type: none"> ・握り持ちの時は鉛筆持ちに持ち変えるよう促し習慣化する。 ・トイレに行く時は、促すだけでなく、尿意の有無を確認する。尿が出た時には、「出たね」「すっきりしたね」と言葉と視覚で確認し、ほめる。 ・ズボンを腰まであげる。→足を順番に通す。など具体的、段階的な支援をする。 【1-1-1 生活上の改善・克服】	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆持ちに持ち変えて、さして食べることができるようになった。 ・尿意に応じて返答できるようになった。 ・ウエストがゴムのズボンをはけるようになった。 	家庭 ○○保育園 療育機関 担当 ○○
B 運動面	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの時間に、1日1回鉄棒に取り組む時間を作る。挑戦することができたら、やったねシールをはる。 ・手指の力や微細面の向上をはかる課題を設定する。(粘土遊び、せんたくばさみ、ビーズ) ・降園時には、支援員とジャンケンをしてから帰る生活リズムを作る。 【1-1-2 内容の変更・調整】	<ul style="list-style-type: none"> ・シールを貼ることに喜びを感じ誘いに応じるようになった。5秒間はぶらさがることができるようになった。 ・粘土遊びはするが、ビーズには関心を示さない。 ・ジャンケンを楽しみにするようになった。手の形も明確になった。 	家庭 ○○保育園 療育機関 担当 ○○
C ことば や 対 人 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・別れの場面では必ずバイバイを取り入れる。応じない時には手を合わせてバイバイをする。 ・「ちょうだい」の動作をした時には、「ちょうだい」と声をかけ、反応を待つ。 ・手を引っ張った時には指差して欲しい物を確認していく。欲しい物を一緒に指差ししてから手渡す。 【1-1-1 生活上の改善・克服】	<ul style="list-style-type: none"> ・バイバイはほぼ定着した。 ・「ちょうだい」は言える時と言えない時があるが、促すと言えるようになった。 ・気持ちが安定している時には指差しが可能になった。不安定な時にはパニックになることもある。 	家庭 ○○保育園 療育機関 担当 ○○
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて行く場所の写真を見せ、そこでの目的を知らせる。 ・手を添えてゆっくり一緒に描く。 【1-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮】	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる人が一緒であれば行けるようになった。 ・自分で線や丸を描けるようになった。 	家庭 ○○保育園 療育機関 担当 ○○
<引継事項> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめることで身辺自立が促される。できた時には、手で大きな丸を作ると効果的である。 ・パニックになったら、集団から一時的に離れ、個別対応するとよい。 			
作成日 年 月 日【新規・更新（ 回）】 園（所）名 保育園 作成担当 (担当者氏名) (役職)			

私は以上の内容に同意するとともに、関係機関に開示することを承諾します。

年 月 日

氏名 (保護者名)

印